

GOTOでコロナ蔓延。地方に波及。
医療崩壊寸前！国会閉会のんびり。

お答えは
差し控える



即答

スピード感
は
ここだけ

【主張するネコたちのこと】シェアもコピーも自由です

お願い。

「和」会報が来年の新年号
で700号になります。

皆さまにお願いです。

新年の抱負や「和」への
意見、苦情など、何でも
ご意見をお願いしたいので
す。会報に掲載予定。《字
数制限なし。1—15字切。》
(掲載不可の時はその旨お知
らせ下さい。)

メール、FAXでも可です。

Go to / で国民を走らせ、感染は急速拡大。医療は崩壊必至。
沖縄・辺野古の埋め立てはどんどん進み、輸入できないはず
のコメが《瑞穂の国》に溢れている。国民の悲鳴を聞け。(周)

皆んなで選んだ
今月の秀句

沖縄の反感耳栓する政府
輸入米瑞穂の国で大威張り

寺内徹乗
中野林

例会案内

1月例会
投稿締切
課題「和」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

1月28日(木)
25日(月)
3句以内
5句以内

◆ 目次

川柳互選・課題吟「感」	2
自由吟	3
自選句・おたより	5
ほのぼの川柳	6
投稿／父親の川柳 北の山	6
戦争前夜抄 ②③ 《竹久夢二③》	8
夢二『震災画信』	8
戦争賛美の与謝野晶子	11
編集後記を兼ねて	16

12月の例会は休会です。

11月の 川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
 ◎3句以内。○全体の半数以内。

◆ 課題吟「感」(互選)

一人3句以内吐

(投句13人/14人の互選)

1	送りたい感無量な人生を	高峰
1	感染拡大飲食チケット売りまくり	高峰
1	核暴発予感に新しいページ	ダン吉
2	日本の未来は不安感ばかりあり	富沙子
2	言いたい事言える幸せ言われる不幸	未知子
2	トランプに感化核傘未だに信じて居る	高峰
3	解党だ感覚麻痺した自民党	高峰
3	1・2・2条約発効感無量	北の山
3	靖国に感謝することありますか	ダン吉
3	補聴器を外して五感研ぎ澄まし	広助
3	被爆者に感謝反核の橋渡し	高峰

4	感謝のみ余命を生きてはや三年	白眞弓
4	言い訳が過ぎて感じの悪い人	林
4	自分だけ感染しない驕りから	広助
4	GOTOで予感あたり急上昇	立東爺
4	勘所押さえる感覚研ぎ澄ます	白眞弓
5	法律を変更のたびに不信感	富沙子
6	一人でも声をあげよう危機感持つて	高峰
6	属国の空気感染なお続く	林
6	菅総理民の感情を自助の圧	宏
7	若者の憲法守れに胸ビンビン	白眞弓
7	官邸の経済先のコロナ感	宏
7	すれ違い背後に五感研ぎすます	立東爺
7	コロナより悪い社会を予感する	富沙子
7	感覚鈍磨モリカケ桜散り始め	未知子
8	医師・知事と大臣等の危機感差	宏
8	株高騰実感のない低所得	亀公子
9	後手後手に逃げ場所のない感染症	亀公子

10	GOTOで宝くじよりあたる感染	立東爺	2	汚染水海洋放出ゆるせるか	宏
10	きな臭さ鈍感になる日本人	徹乗	2	コロナ禍で多くの民への減税を！	宏
10	お笑いに麻痺し政治に不感症	亀公子	2	戦争をくぐり抜けた生命憂える社会	富沙子
10	民主主義語る感性ない悲劇	林	2	経済に自粛の声が効いている	広助
10	責任は感じています取る気ない	広助	2	六人のために総理の座を賭ける	白眞弓
12	ウイルスと差別に痛む感染者	徹乗	3	ドアホンにいまりモートと庵主さん	北の山
13	大阪市守る勇気の浮動票	ダン吉	3	苦労人ホントだったら恥ずかしい	ダン吉
14	沖縄の反感耳栓する政府	徹乗	3	投げ出して急に元気になった人	ダン吉
◆自由吟 (互選)					
一人5句以内吐 (投句13人/14人の互選)					
1	学術を世論味方に踏み潰し	徹乗	3	次々と消費税上げ民つぶす	未知子
1	死者の数コロナで騒ぐ去年が多い	高坊	3	GOTOで人気取して裏目に出	一角
1	味しないけれど無限の寿司を食い	徹乗	3	コロナより悪い世作る内閣だ	富沙子
	山本太郎に鬼滅の刃がついている	未知子	3	国会の答弁すべて言葉のアヤ	富沙子
	若者を攫 ^{つか} い原発ゴミ上げる	ダン吉	3	消費税を上げGDPは下降線	未知子
	苦労して私意固地になりました	ダン吉	4	桜見で上から目線が失敗し	一角

4	核のゴミ二〇万年後責任は？	宏	6	往生際悪さを競う日と米	白眞弓
4	マスク着けながら食う得意技身に付ける徹乗	富沙子	6	国民のためと言いつつ保身の闇	富沙子
4	コロナ策三波無為無策見る棒グラフ	大峰	6	自助を説く総理答弁ままならず	北の山
4	学術に無縁のマスク悪あがき	林	6	霞ヶ関秋の桜で大賑わい	高坊
4	コロナ不況GOTOよりもメシが先	未知子	6	地球には言い訳効かぬ化石賞	亀公子
4	自粛する暮らしが義理を欠く理由	広助	6	マスコミも「神話」皇族たてまつる	宏
4	新コロナ新総理には新型で	広助	6	辺野古ではしゃれこうべで埋めたる	一角
4	原子力絶対ダメと言わぬ国	富沙子	7	敗戦からいつまで続く地位協定	大峰
5	小国の声が集まり道拓く	北の山	7	汚染水血税で薄めて太平洋へ	大峰
5	自助強いて「GOTO死の旅」続行す	林	7	消費税元に戻せと言うコロナ	広助
5	自助でやれ議場に響くヤジの声	白眞弓	7	祖母母の戦世孫に受け継がず	白眞弓
5	モザイクを束ねたはずの星条旗	立東爺	8	モリカケの新種サクラの散り始め	立東爺
5	年の暮れ蟻の巣襲うコロナの火	亀公子	8	気をつける窮鼠になるかスガ政権	白眞弓
5	いと嬉し季節外れの桜の开花	高坊	8	三密とマスクで隠す胸の内	広助
5	GOTOが旅とイートでコロナ増	宏	8	登りつめた階段の上でのぼせてる	林
6	GOTOで命天秤に掛けられる	立東爺	8	竹中に弱きをくじく虫が棲み	林
6	牢獄が似合う総理と前総理	一角	9	張りぼてのくせに政権見栄を張る	亀公子

9 外圧を盾に改憲煽る雑魚

亀公子

9 學術に付度がまた顔を出す

徹乗

10 人間の鎖で耐える辺野古の地

亀公子

10 日本史を改竄しながら編んでいる

大峰

11 自助共助ついでに公助言うておく

ダン吉

11 散り際の美学が見えぬサクラかな

立東爺

12 コロナより怖い原発再稼働

徹乗

13 輸入米瑞穂の国で大威張り

林

前号の句訂正

前号の句、訂正です。ダン吉さんの句。

誤 無になれて、気楽なんです他人さま

←

正 無になれと気楽なんです他人さま

手書き文字の「て」「と」が読み間違えて、意味が違ってしまいました。申し訳ありません。深謝。(編集子＝周)

◆自選句 坂本 富沙子

言葉のアヤでごまかす答弁し

付度で法律変える国日本

付度で法律歪める永田町

同じ言葉あの手この手で答弁合戦

会議場あの手この手で渡り合う

「日本はどうなるのかね」デイスービスで小声

◆自選句 中野 林

ファシズムが呼び鈴鳴らす仕種する

首都の空天国ですよと言うミサゴ

秋の夜輝き見られぬ人多し

嘘重ね支持率あげる操作する

トランプに喉けられた敵基地論

トンネルの先にもコロナ控えてる

奥様と飯を食わない主義でして

◆自選句 前田 大峰

ホモサピエンス半減期までに死に耐える

葬儀屋はコロナで格差見せ付ける

おくり人が居ないコロナ葬哀れ

反戦と忖度して六人も

忖度の役人蠢く永田町

おたより

◆岩佐ダン吉さんより（大阪）

岸和田市の山手はみかん狩りの最盛期で連日バスやマイカーが……、でも急坂の山。年離れた夫婦が、残されたミカンを見上げていました

~~~~~

### 父の川柳

金石 北の山

私の父は四十歳を過ぎてから川柳にはまり出しました。当時私は小学校の高学年だったのですが、毎日父の川柳の批評をさせられるのが、日課でした。我が家は奥能登の田舎で、父は郵便局に勤めながら五反部の水田を耕す典型的な兼業農家でした。

## ほのぼのの川柳

クリスマス待ち遠しいとわが子たち

神田 鯛

プレゼント高くて財布泣いている

神田 鯛

バトミントン始めてうれしいわが子だよ

神田 鯛

金沢城花魁着物で写真撮る

東 爺

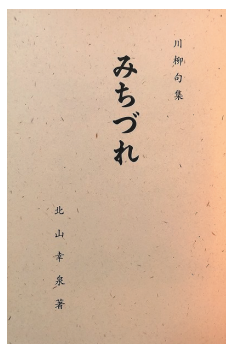
ポンポコと軽い音です祝い樽

東 爺

父が川柳に目覚めたのは、ある時重い稲束を積んだ荷車を引きながら一人坂道をのぼっていたら、急に軽くなってどうしたのかと後ろを振り向くと、なんと同じ部落の仲間が押してくれていて大いに感激し、友達とは何と有難いものかという気持ちを川柳にして新聞に投句したのです。その句がたまたま入選したのが川柳を作り出すきっかけだったと話していたことを思い出します。



↑ 北山幸泉さん  
句集『みちづれ』  
→



父は七十七歳の金婚を期に句集『みちづれ』

を自費出版していますので、今でも父の句に触れることができるのですが、「よろこび」「いかり」「かなしみ」「たのしみ」「きせつ」「ざつえい」の六編に507句が納められています。

身内の者が父の句を批評するのはちよつと気恥ずかしいところもありますが、今回は「よろこび」編から何句か紹介してみたいと思います。

・金婚と喜寿と古希の三重奏

・髭剃れと言う妻がいていい余生

五十年の山坂を乗り越えてきた結婚生活を偲ばせる句だと思います、句集『みちづれ』の表

題にもなった感慨かと思っています。

・正月も休めぬ賀状と三十年

郵便局員にとつて一年で一番忙しいのが、全国民が一番のんびりしている元旦で、その日は父だけでなく私たち家族も駆り出される状態で、当時を懐かしく思い出します。

・出稼ぎも戻り隣の笑い声

昭和三十年代奥能登地方の多くの農家のご主人は秋の収穫が終わると酒の仕込みの出稼ぎ（当地方ではオトシベ）で、加賀地方や灘方面に行かれる方が多かった。春の耕作が始まる前に帰ってこられ、家庭がパツと明るくなるという事で、お土産の酒粕を沢山もらったことを思い出します。

・年金の支給日孫も待っている

孫にはメロメロで相好を崩していた姿が思い出されます。

（了）



## 『戦争前夜抄』

23

周立東爺

## 夢二『震災画信』より ③

## 朝鮮人虐殺に警鐘

夢二は、関東大震災の時、被災の様子を画で残し『都新聞』に連載している。特出されるのは朝鮮人（中国人も）虐殺を批判的に書き発信していることだ。

子どもたちは大人の様子を遊びにする。「ごっこ」である。9月9日付け『都新聞／東京災難画信』で、「自警団遊び」のイラストを書き、



自警団遊び

## 自警団遊び 大正12年9月19日／都新聞

「萬ちゃん、君の顔はどうも日本人ぢやあないよ」

豆腐屋の萬ちゃんを掴まへて、一人の子供がさう言ふ。郊外の子供達は自警団遊びをはじめた。

「萬ちゃんを敵にしようよ」

「いやだあ僕、だつて竹槍で突くんだらう」

萬ちゃんは尻込みをする。

「そんな事しやしないよ。僕達のはたゞ真似なんだよ」

さう言つても萬ちゃんは承知しないので餓鬼大将が出てきて、

「萬ちゃん敵にならないと打「ぶち」殺すぞ」と嚇かしてむりやり敵にして追かけ廻してゐるうち真実「ほんとう」に萬ちゃんを泣くまで殴りつけてしまった。子供は戦争が好きなものだが、当節は、大人までが巡査の真似や軍人の真似をして好い気になつて棒切を振りまはして、通行人の萬ちゃんを困らしてゐるのを見る。

ちよつとこゝで、極めて月並の宣伝標語を試みる、「子供たちよ。棒切を持つて自警団ごっこをするのは、もう止めませう」



警鐘をならしている。また自身も、「いつどこの関所で竹槍で刺されるか知れない自分を考えた」(『ドキュメント関東大震災』1983年)。「去年九月一日から一週間ばかりの間に、夜も晝も道玄坂をすさまじい響をたて、下つていった陸軍の軍用タンクの自動車は、私の頭に異常な不安を残したと見えて、いつでも夜ふけてあの響を聞くと、實に荒唐無稽な恐怖におそはれる」(『砂がき』1924年)と残している。

夢二が「自警団遊び」で書いているように「大人までが巡査の真似や軍人の真似をして好い気になつて棒切を振りまはして」いたのである。

確認しておくと、9月1日、関東大震災をきっかけに権力(軍隊や警察)による犯罪が連続する。

2日Ⅱ自警団等の朝鮮人殺戮(犠牲者数千人)

4日Ⅱ亀戸事件(軍隊による河合義虎らの殺害)

16日Ⅱ甘粕事件(大杉栄・伊藤野枝らの殺害)

これら体験が竹久夢二作品の根底にある「非戦のメッセージ」となったはずである。





瓦礫となった銀行の金庫の上  
で兵隊が見張る。(報道写真)

## 戦争を賛美する与謝野晶子

与謝野晶子を「反戦歌人」と思っている人も多い。教科書の日露戦争の項で、必ずそう教えられてきたからである。

雑誌『明星』に発表された「君死にたまふことなかれ」は、旅順包囲軍にいる(1905)実弟を気遣う姉の心情で、反戦を詠った素晴らしい女流歌人といわれる晶子であるが、少々調べるだけで、晶子の思想は、天皇賛美、中国、朝鮮人民への蔑視、大和民族の優生思想を持つ歌人、文筆家だったことが容易に知る事ができる。

日露戦争以後、日本は大陸へ進攻、晶子は戦争擁護の姿勢を鮮明にしていく。こうした中で、かつて弟を詠んだ「君しにたまふ…」から38年後、同じ弟を気遣う歌を詠む。

「水軍の 大尉となりて わが四郎 み軍にゆく

たけく戦へ」

### 全ての責任が軍閥にあると主張

満州事変(1931年 9/18)を起こした陸軍を誉め、事変の9日後、『横浜貿易新報』に『東四省の問題』を載せる。

「今度の満州事変が決して一時の突発でなくて、彼国の軍閥政府がその積み上げた排日侮日の思想及び言動に由つて自ら招いた災禍である事の証明となるものである。日本はその排日行為に対して久しく隠忍を重ねた。終に忍び切れずして出先の陸軍が非常手段の自衛策を断行した。この非常手段は決して好ましい事でないが、かやうな措置を取るに至らしめた責任が彼国の軍閥政府にある。

蒋介石も張学良も快速に善後策を講じないと云ふなら、東三省の支那国民自身が独立して初めて国民の実力にもとづく平和な新政府を建設し、日本と交渉して真実に鞏固な共存共栄の道を開くがよ



いではないか」

と主張し、追記として、次のように記す。

「追記、私の此の一文は偶然にも予言の如くになって、間も無く満州国が成立したのであった。」

## 天皇を賛美する与謝野晶子

「東四省の問題」が集録されているのは晶子の十五番目にあたる最後の評論集で、晶子自ら「優勝者となれ」と表題を付けて、1932年（昭7/10月）に発刊されたものである。

この評論集の冒頭には、皇室賛美の「日本国民たることの幸い」を置き、「自序」で次のように記している。

「目前の日本は、国家としても個人としても、破天荒の飛躍を断行しつつ、歴史を新しくする一大転機の中に動いている。無用の旧慣、有害なる前例は之を破らねばならぬ。すべての人が各自の能力相応に日本の進展を円滑にする歯車

の一つとして国民の本分を尽くさねばならぬ。」

以下は、冒頭「日本国民たることの幸い」の抜粋である（1932/1/1）。



「私の常に感謝してゐる事が幾つかある。中にも第一に忝かたじけなく思ふ事は、日本に生れて皇室の統

## 簡略年表《十五年戦争》

- 1901年 与謝野晶子「みだれ髪」
- 1904年 晶子「君しにたまふことなかれ」
- 1903年 関東大震災（朝鮮人虐殺、亀戸・甘粕事件）
- 1924年 治安維持法成立
- 1925年 鶴彬柳壇デビュー（16歳）
- 1926年 改元「昭和」
- 1928年 普通選挙法で総選挙／治安維持法 死刑追加／張作霖爆死事件
- 1929年 金融大恐慌
- 1930年 ロンドン条約／鶴彬七連隊入営／赤化事件で拘束
- 1931年 満州事変／晶子「東四省の問題」／鶴彬



若き晶子

切手になった晶子



制の下に生活してゐることの幸福である。近代の  
世界には帝政も王政も減じて、その僅かに残るもの  
も甚だ影の薄いものとなつたが、我我の戴く  
皇室のみは反対にますます威厳をお加へ（次頁へ）



晶子の子は12人（6男6女）

- 1932年 大阪衛戍監獄収監  
上海事変／満州国建国／**晶子**評論集「優勝者となれ」
- 1933年 国際連盟脱退／**小林多喜二**虐殺
- 1934年 **井上剣花坊**没
- 1936年 天皇機関説／大本教弾圧／二・二六事件  
／日独防共協定
- 1937年 盧溝橋事件／日中戦争／日独伊三国防共協定／**鶴彬**逮捕／**井上信子**「国境を知らぬ草の実こほれ合ひ」
- 1938年 国家総動員法が成立／**鶴彬**獄死
- 1939年 賃銀統制令・価格統制法
- 1940年 日独伊三国軍事同盟／小麦粉・米穀・砂糖配給統制／大政翼賛会創立
- 1941年 東条内閣成立／真宗教学懇談会（戦争協力決定）／太平洋戦争開始（～1945年）  
／言論出版等臨時取締令
- 1942年 **晶子**「水軍の大尉となりてわが四郎」
- 1943年 大東亜会議
- 1944年 防空壕の強制施行、竹やり訓練実施
- 1945年 米軍沖繩上陸／広島・長崎に原爆投下  
ポツダム宣言受諾／天皇「敗戦放送」



晶子 15 番目にあたる  
評論集「勝利者となれ」  
(1932/7/20) を掲載し  
ている鉄幹晶子全集 27

になつてゐる。我我日本人には信賴すべき中心が  
此様に確實である。他の諸国には帝政の国と雖も、  
絶対の權威を以て国民を統制する主体が無い。ま  
して其他の民主国に於ては治者と被治者とが我  
儘な相互關係におかれてゐるだけ、統制の主体が  
常に動揺し、その統制力が甚だ弱い。」

この文章に続いて、古代からの歴史を解説し、君  
民一体のありがたさを説き、中国大陸の民は軍閥  
に支配されて、我が日本の軍隊は陛下の大権の元に  
極東の平和を確保するために闘つてゐる、と記す。↘

また、「<sup>けふあい</sup>狭隘な一主義の御用教育者や御用文人に  
甘んじ得ない者は、一日も我国に於て生存すること  
が許されないであらう。」とまで主張する。

次の詩も「優勝者となれ」に収められている。



## 国民覚醒の歌

ああ大御代の凜凜<sup>りり</sup>しさよ、

人の心は目覚めたり。

責任感に燃ゆる世ぞ、

「誠」一つに勇む世ぞ。

空疎の議論こゑを絶ち、

妥協、懦弱の夢破る。

正しき方<sup>かた</sup>に行くを知り、

百の苦難に突撃す。

身は一兵士、しかれども。



破壊筒をば抱く時は

鉄条網に躍り入り、

身をばまことに粉と成せり。(※注)

身は一大尉、しかれども。

敵家宅なる戦ひに、

過つことのある時は、

責を身に負ひ腹を切る。

身は一少佐、しかれども、

敵のなさけに安んぜず、

花より清く身を散らし、

武士の名誉を生かせたり。

其等の人に限らんや、

同じ心の烈士たち、

わが皇軍の行く所、

北と南に奮い起つ。

(中略)

無力の女われさへも、

かくの如くに思ふなり。

況やすべて秀でたる、

父祖の美風に生くる民。

(以下略)

与謝野晶子を探ってきた。冒頭に書いたように、

晶子は天皇賛美、中国、朝鮮人民への蔑視、大和民

族の優生思想を持つ歌人だったこと。同情すべき点

が一つある。大変な子沢山、13人の子をもうけ、双

子出産二度、一人は出産2日後死亡。夫・鉄幹が売

れなくなると、書いて稼ぐしかなかったという点で、

晶子の天分を惜しむ小生である。

(つづく)

※注 「鉄条網に躍り入り……」とは、いわゆる「爆弾三勇士」のこと。上海事変の1933年、日本軍がトーチカと鉄条網とクリークで守られた敵陣へ突入するため、作戦に約36名が志願、三人の兵士が選ばれ、突入自爆死した。後日の検証で「必死の作戦は必要なかった」とされている。この事件を大阪毎日新聞・東京日日新聞は「爆弾三勇士」と報道して戦意高揚の一つとなった。

## 編集後記を兼ねて

▼拙宅を訪ねて  
こられた方がお  
られました。金沢のH・Sさんと、最近「和」  
の会報をネットから見つけ、「暁烏敏の戦争  
責任」や鶴彬についても調べられていました。  
▼後日、メールで貴重な資料が届きました。  
川柳も詠まれ、人権や戦争・平和などをテー  
マに膨大な資料をもとにしたブログも展開さ  
れていました。機会があれば紹介します。▼  
さて、新型コロナウイルスがGOTOとやらで、全  
国に飛び散り、各地が医療崩壊寸前。▼こう

した危機を目の前にしながらスガ総理は、  
国会閉鎖、GOTO継続で、会見もせずジ  
ジョジジョだけははつきり言う。安倍前総  
理は「サクラ散る散る満ちる」で、これも  
崩壊寸前。同じ崩壊でもこれは賛成！▼巷  
では、失業し、金もなく、どこへも行けぬ  
追い込まれて自殺者が急増。「自助を云わ  
れるずっと前からやっているって！」そ  
んな叫びが聞こえてくる。▼今だからこそ、  
後世に残る名句が生まれるのでしょうかね！  
「和」から期待したいですね。(周)

## 1月例会のご案内 (毎月第4木曜日)

◆例会 1月28日(木) ◆投稿〆切: 25日(月)

◆課題 「和」 3句以内 ◆自由吟 5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。

◆**コロナ急速拡大で例会を再開できるかどうか?**

●投稿 FAX(076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は  
下段住所へ。

「和川柳社」会報  
会員募集しています!

同人: 4000 円/年  
投句/購読: 2000 円/年  
★会報の他に、関連資料など  
もお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目 15-30 (3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX: 076-254-0762 PC-mail: [kananabe@popolo.org](mailto:kananabe@popolo.org)

携帯: 090-9445-1302 携帯 mail: [kan-wata@i.softbank.jp](mailto:kan-wata@i.softbank.jp)

振込先: 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》《オカリナ制作》・上村彰